

# ゆとりある教育を求め 全国の教育条件を 調べる会 ニュース

2020. 6. 23発行

NO. 60

★夏の研究会中止のお知らせ

★少人数学級“提言”発信

## 今年は、夏の研究会見送り 総会は、延期します。

緊急事態宣言は解除となりましたが、“3密”を避けるため、事務局で検討した結果、今年の夏の研究会は中止することにしました。

その代わりに、事務局3役の実務合宿を行い、今後の会の調査活動などのすすめ方についての細かい打合せをすることにします。

(8月8日～10日・奈良市)

### 前号の追加

宮城県教職員組合 書記長 堀籠 拓さん

・青年部長 Yさんからのメール

(詳細 8頁)

## お待たせしました！

### 公文書CD出来ました。

- 2019年度の定数・実数関係文書
- 2016、2017年度の決算（確定版）
- 算定総額の詳細文書（2014、2015年度）

などの入ったDVDが出来ました。

今年度（2019年8月～2020年7月）の会費を納入して頂いた方に、CDをお送りしました。

## 事務局長“提言”発表！

6月7日、少人数学級の推進を求める“提言”を作成し、政党と全国新聞社と教職員組合に送りました。コロナ禍のもと、「20人以下で授業」と言うなら学級編制基準を「上限20人」にする必要があります。

今回初めて、少人数学級を実現する場合の増加必要教員数と給与費の計算をしました。「35人以下」は即可能という驚きの結果も。（詳細 2～3頁）

## コロナ禍対策の第二次補正予算と教育

コロナ渦で2月28日以降、全国で小中高、大学、特別支援学校も含め一斉に授業自粛に伴い、第二次補正予算が論議され、6月12日に成立しました。そこで教育の部分について若干説明しておきます。

要約 小宮幸夫（詳細 4～5頁）

## 事務局長の大学院生活レポート

3年早期退職をして、この春大学院に進学することとなった山崎事務局長のホヤホヤレポートです。

(詳細 6頁)

(関連記事 7頁)

## 新作パンフレット2冊

NO 41

「提言・感染症対策とゆとりある豊かな教育のために  
少人数学級制の導入を」

NO 42

「ほとんど全部見えます！  
県ごとの教育条件総覧  
2015年度宮崎県の場合」

正会員・賛助会員の方に同封します。

### ◆今年度会費の納入を

お願いいたします（7月締め）

（会計年度は、8月～7月です。）

ゆうちょ銀行

名前：全国の教育条件を調べる会

番号：01750-5-132608

正会員 年間 5千円  
学生会員 〃 1千円  
賛助会員 〃 2千円

\* 過年度については、必ずしも納入していただく必要はありません。ただし、公文書CDが必要な年度については、納入してください。

# いまこそ 20 人学級制を—必要な財政量と実現可能な導入方法を提案する—

事務局長 山崎洋介

## はじめに

新型コロナウイルス感染防止のための休校措置から学校が再開はじめました。子どもも教職員も保護者も、かつて経験したことのない苦難を経て、いま学校を安心安全なかたちで再スタートさせようと奮闘しています。その学校現場では、「いまこそ少人数学級制を実施してほしい！」という切実な声が、かつてないほど高まっています。

調べる会は、6月7日に、提言「いまこそ少人数学級制の導入を—感染症対策とゆとりある豊かな教育のために—」を発表しました。その要旨を紹介します。

## 1. 少人数学級制導入の必要性

### (1) 「身体的距離の確保」を実施できる環境整備

文部科学省は、5月22日に「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」を発表しました。その中で、「3つの密（密閉、密集、密接）」を避け、「ゼロ密」を目指すとして、「身体的距離の確保」を推奨しています。

今後も新たな感染症が流行する危険性を考えるならば、「身体的距離の確保」が可能な恒常的な環境整備が求められます。

### (2) 「分散登校」経験から

学校を再開した多くの学校では、1クラス20人以下となるように、クラスの児童生徒を半分ほどに分けて登校させる「分散登校」が行われました。しかし、それは、あくまでも緊急的臨時的なものです。

「分散登校」を実施した学校からは、感染症対策の重要性とそのための困難や苦労の声とともに、少人数の教室で実施する教育の「良さ」を評価する声も上がっています。少人数での学習や指導の教育効果を再認識したかたちです。

## 2. 少人数学級制のメリットとデメリット

### (1) 少人数学級制のメリット

メリットとして主として主張されてきたのは、「子ども達一人ひとりにゆとりをもって個別の活動機会を設定しやすい」という「ゆとり」論と、「子ども達一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい」という「ゆきとどき」論でした。

### (2) 少人数学級制のデメリット

それに対しデメリットとして主張されたのは、「集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」という「切磋琢磨」論でした。しかし、感染症対策のため、「切磋琢磨」はもはや合理性がなくなったといえます。

## 3. 少人数学級制実施の財政量試算

国民世論の期待にも関わらず、なかなか実現しなかった最大の理由は財政問題でした。そこで、実施するにはどのくらいの財政量を必要とするのか試算してみました。

### (1) 2019年度に少人数学級編制を実施していたら追加が必要だった財政量試算

まずは、2019年度の学校基本調査等の政府統計を使用し、自治体による少人数学級などの現行の教職員配置はそのまま、もし少人数学級制(Ⓐ35人学級 Ⓑ30人学級 Ⓒ25人学級 Ⓓ20人学級)を実施すると、教員数と予算(国庫負担・地方負担)をどれだけ追加する必要があったかを試算しました。

- Ⓐ35人学級実施には、約1万5千人の教員、国・地方合わせ約1200億円の追加予算
- Ⓑ30人学級実施には、約6万2千人の教員、国・地方合わせ約4900億円の追加予算
- Ⓒ25人学級実施には、約8万3千人の教員、国・地方合わせ約8300億円の追加予算
- Ⓓ20人学級実施には、約12万5千人の教員、国・地方合わせ約1兆円の追加予算

### (2) 少人数学級活用可能な教員定数を全部活用、増学級による担任外教員も増員した場合の財政量試算

①既存の少人数学級実施活用可能な教員定数をすべて活用(補正1)、②地方の少人数学級においてはほとんど増やされていない「増学級により増やされるべき」担任外教員分を増員(補正2)の2項目を加味し、追加の財政量計算を試算しました。

- Ⓐ35人学級実施には、追加教員、追加予算は必要なく、既存の定数で実施可能
- Ⓑ30人学級実施には、約4万5千人の教員、国・地方合わせ約3600億円の追加予算
- Ⓒ25人学級実施には、約8万8千人の教員、国・地方合わせ約7000億円の追加予算
- Ⓓ20人学級実施には、約10万9千人の教員、国・地方合わせ約8600億円の追加予算

## 4、提言

### (1) 少人数学級に活用可能な既存定数も活用し、来年度から35人学級を実施すること

3でみたように、理論的には少人数学級に活用可能な既存の教員定数をすべて活用すれば、35人学級は追加の教員や予算なしでも実施可能です。またこれ以外にも、政令により配当されている加配定数の内容を精査し、できるだけ基礎定数に振り替えていくことにより35人学級を実施します。

### (2) 再来年度以降、全学年の学級上限人数を1人ずつ減らし15年間で20人以下にすること

#### (1年に2人ずつなら8年間で実現)

義務標準法の学級編制標準(3条2項)を現行の40人(小1は35人)から20人に改正します。ただし、教員不足で未配置が多数生まれている現状では、一気に何万人もの教員を確保することは困難です。また、教室など施設の確保も。まずは35人学級を実施したのち、次年度は全学年で34人学級、次々年度は33人学級と順に15年間をかけて20人学級へと段階的に移行。この方法だと、どの学年も平等に、毎年多人数の学級を着実に減らしていくことができます。1年に2人ずつなら8年間で実現できます。

### (3) その間に教員養成と教室等施設の確保を計画的に進めること

20人学級の段階的实施は、計画的に教員養成や施設の準備を行う時間的余裕を生みます。また、ゆとりある豊かな教育の実現は、教員の長時間過密労働を解消し、教員の仕事のやりがいにもつながり、教職の魅力を増すことで教員のなり手不足の解消にもつながるでしょう。

## おわりに

世界第三位の経済力をもつ日本。一方、公財政教育支出はOECD加盟国最低レベル。日本には、その財政力が十分あります。国民世論であり、グローバルスタンダードである少人数学級制実施へ、いまこそ踏み出すべきです。

# 6月12日、**コロナ禍対策の第二次補正予算** 国会で成立。

## 教育では・・・

要約 小宮幸夫

コロナ禍で2月28日以降、全国で小中高、大学、特別支援学校も含め一斉に授業自粛に伴い、第二次補正予算が論議され、6月12日に成立しました。そこで教育の部分について若干説明しておきます。

### **学校の段階的再開に伴う児童生徒等の学びの保障として 761億円**

#### I 学習保障に必要な人的体制の強化 (310億円)

臨時休業の長期化や段階的な学校再開を見据え、  
子供たちを誰一人取り残すことなく最大限に学びを保障するため、  
退職教員や教職課程の学生をはじめとする大学生等、幅広い人材を雇用し緊急的に追加配置  
(84,900人)

##### 1. 教員の加配 (負担率 1/3)

・地域の感染状況に応じて、

小中学校の最終学年(小6・中3)を少人数編成するために必要な教員を加配(3,100人)

##### 2. 学習指導員の追加配置 (補助率 1/3)

・子供たち一人ひとりの学習定着度に応じたきめ細かな指導を図るためのT T指導、  
家庭学習の準備・チェックの実施等の学級担任の補助や、  
放課後や長期休業中等を活用した補習学習、習熟度別学習などを実施するため、  
学習指導員を大規模追加配置(61,200人)

#### II 学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援経費 (405億円)

段階的な学校再開に伴い、学校の感染症対策等を徹底しながら子供たちの学習保障をするため、  
新たな試みを実施するに当たり、  
校長の判断で迅速かつ柔軟に対応することができるよう、  
国が緊急的な措置として支援(補助率 公立・私立 1/2 国立: 10/10)

◆1校当たりの上限額: 100万円~300万円程度(感染状況等に応じて加算あり)

◆対象: 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等

○学校における感染症対策等への支援

- ・消毒液や非接触型体温計等の保健衛生用品の追加的な購入経費
- ・特に感染症の拡大を警戒する必要がある地域において、  
集団で検温を実施する場合に必要なサーモグラフィ等の購入経費
- ・教室における3密対策として、換気に必要なサーキュレーター等の購入経費
- ・学校給食について、調理員の熱中症対策に必要な経費

○子供たちの学習保障の取組への支援

- ・特に感染症の拡大を警戒する必要がある地域において、  
家庭における学習のために用いる教材の購入等、  
児童生徒の学びの確実な定着を図るために必要な経費
- ・学校電話機の臨時増設等、家庭との連絡体制強化に必要な経費
- ・教室における3密対策として、空き教室を活用した授業の実施に必要な備品購入費

Ⅲ特別支援学校スクールバス感染症対策支援の拡充（16億円）

補助率公立・私立：1/2 国立：10/10

Ⅳ幼稚園におけるマスク購入等の感染拡大防止に係る支援（30億円）

補助率：10/10（1施設あたり50万円以内）

その他

国立46億円、国立高専2.3億円、私立大学94億円、困窮学生授業料減免、  
私立高校 8.6億円の家計急変世帯への授業料減免支援があります。

# 事務局長の大学院生活レポート

事務局長 山崎洋介

この春、山崎は定年まで3年を残して小学校教諭を退職しました。定年後は大学院で学びたいと漠然と考えてはいたのですが、大好きな教員の仕事を定年前に辞めるつもりはありませんでした。しかし、どうせ受からないだろうから将来のため試しに受けてみようという軽い気持ちで受験した大学院2校から合格通知が届いてしまい、悩みに悩んだ末に退職を決断しました。現在は、大阪大学大学院人間科学研究科で教育制度学を学んでいます。

ただ、退職間際の3月に突然の休校となり、貴重な一か月は失われました。担任していた6年生とは簡易な卒業式であわただしくお別れをしました。離任式や送別会は行われず、子どもや先生方に退職退任のあいさつもできぬまま寂しく学校を去りました。そして大学の入学式も行われず、キャンパスにも行けないうまま、ずっと自宅でオンライン授業を受ける毎日です。

そのうえ残念なことに、調べる会としても、依頼されていた岐阜教組の学習会講師や東大本郷での日本教育学会の教育シンポジウムのパネリストなどの仕事がなくなってしまう、今年は夏の研究会もできないなあと思っていたところ…にわかに思いもよらぬ「ミニバブルモテ期」が到来しました。

「少人数学級実現にはどのくらいの教員数と予算が必要なのか計算してほしい」という依頼が、いろいろな団体や新聞、雑誌から私に寄せられるようになったのです。感染防止のために「少人数クラス」で学校生活を送らせる必要性和、「分散登校」での「少人数クラス」の実験が、恒常的な少人数学級制の実現を求める声となって、世論が沸騰しはじめたのでしょう。首相の言葉を借りるならば、いま「空前絶後の」少人数学級制実現のチャンスが訪れています。この機会をとらえて、調べる会としてなんとしても「提言」をつくり、発信しなければと考えました。もしかしたら、この機にこの仕事をやらせるために、天は私をこのような境遇に置いたのかもしれないと、運命のようなものを感じながらひたすら計算しました。

こうして出来上がった「提言」です。ぜひ、お読みいただき、ご意見をいただきたいと思います。少人数学級制実施のための財政量試算は、橋口さんとも電話で何度も相談しながら、いろいろ試行錯誤した途中経過の数値です。「提言」には、エクセルシート20枚以上で計算しているデータを資料としてつけていますので、さらにブラッシュアップするための「たたき台」にさせていただけたらと思います。そして、事務局を中心に「提言」を再検討して、ぜひ調べる会としての3冊目の書籍にまとめていきたいと考えています。

大好きだった仕事を辞め、いただけるはずだった給与を放棄してまで進んだ学究の道です。悔いのないようにしっかり研究していきたいと考えています。そしてその成果で、今までお世話になった教育界にご恩返しができたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

仙台でお世話くださいました**宮城県教職員組合から、感想**を頂きました。

- たくさんの刺激をいただいた2日間でした。これまで「定数配当表」は入手していたものの「学校規模による配当数の違い」や「国の基準との見合い」などについては、分析しきれず、運動に反映させることができずにいました。  
今回の学びを、「質の高い少人数学級」実現に向けた運動を進めるきっかけにしていきたいと考えます。

追伸:学習会後の執行委員会で「調べる会」への団体加入を確認しました。  
今後ともよろしく申し上げます。

(宮城県教職員組合 書記長 堀籠 拓)

- 「交渉でどう使うのか」という質問に、的確にお答えいただきありがとうございました。  
資料を青年部交渉でも活用し、宮城での専科教員増員を勝ち取っていききたいと思います。

(宮城県教職員組合 執行委員・青年部長 Y)

#### お詫び

前号へ掲載すべきでしたが、広報担当のミスで遅れました。申訳ありません。